



TITLE:

京大広報 No. 134

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 134. 京大広報 1977, 134: 607-610

ISSUE DATE:

1977-02-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209557>

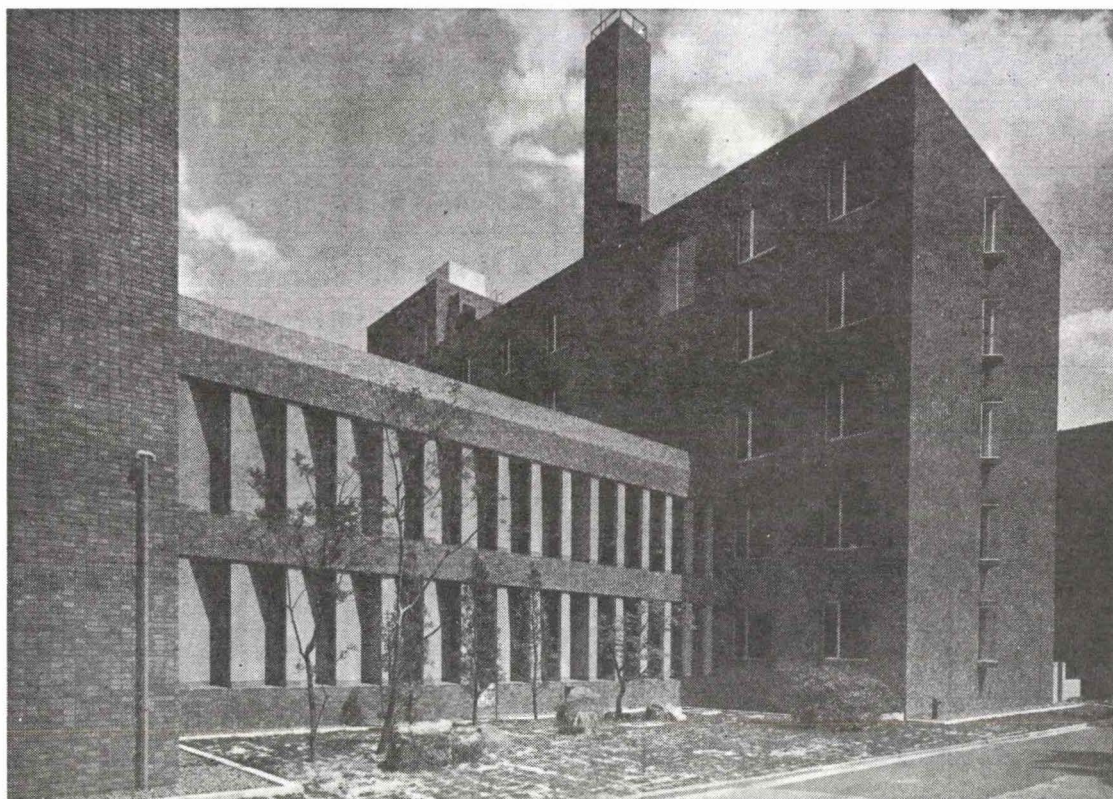
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 134

京都大学広報委員会



図書館及び法学部経済学部研究室 —法経北館— (本部構内)

(昭和47年3月14日竣工, 法学部・経済学部関係図書室, 研究室, 会議室より成っている。—関連記事4ページ「紹介」—)

目 次

昭和51年度の停年退職教官…………… 2

<随 想>

国立大学入学共通一次テストの実施
に寄せて

名誉教授 柴田 實…………… 3

大型計算機センターに新システム導入…………… 3

<紹 介>

法学部の蔵書…………… 4

日誌・訃報…………… 4

＜大学の動き＞

昭和51年度の停年退職教官

京都大学教員停年規程により、本年4月1日付けで本学を退職される教官は、次の方々（教授21名、講師1名）である。

部 局 ・ 職	氏 名	生年月日	出身地	講座・研究部門	研 究 分 野
文 学 部 教授	武 藤 一 雄	大正 2. 8. 2	兵庫県	宗 教 学 第二	キリスト教学及びその見地からの宗教哲学
〃	濱 田 敦	2. 8. 6	京都府	国語学・ 国文学 第二	歴史的観点に立脚した日本語研究
教育学部教授	小 倉 親 雄	2. 6. 13	鳥取県	図 書 館 学	図書館思想史（図書館・図書館学・図書館学教育の思想的系譜と国際的交流に関する研究）
理学部教授	時 岡 隆	2. 12. 19	山口県	瀬戸臨海実験所	数種の浮游動物及び被囊動物に関する分類と海洋生物学的研究
〃 講 師	今 川 文 彦	2. 9. 7	愛媛県	宇宙物理学第二	散開星団の精密多色測光による観測的研究
医学部教授	伊 藤 鉄 夫	2. 8. 8	山口県	整 形 外 科 学	関節外科及び脳性麻痺並びに末梢神経損傷の基礎的・臨床的研究
薬 学 部 教授	木 島 正 夫	2. 11. 11	京都府	生 薬 学	生薬学（特に和漢薬を中心とする基原植物の研究）、薬用植物の組織培養による資源確保の研究
工学部教授	向 井 滋	2. 11. 25	北海道	資 源 精 製 学	選鉱、選炭、鉱石処理並びに産業廃水の処理など資源精製分野の研究
〃	岡 村 誠 三	3. 1. 1	山口県	高分子材料化学	高分子の合成、分解、紡糸、放射線化学医用高分子材料の研究
〃	神 元 五 郎	3. 1. 1	京都府	推 進 工 学	流体機械、高速気体力学及び実在気体力学に関する研究
〃	奥 島 啓 弐	3. 2. 16	京都府	精 密 加 工 学	工作機械性能、切削工具損傷、材料の被削性など機械生産システムに関する研究
農 学 部 教授	内 田 俊 郎	2. 7. 5	岐阜県	昆 虫 学	昆虫生態学、特に貯穀害虫を材料とした個体群動態の実験的研究
〃	川 口 桂三郎	3. 3. 31	京都府	土壌及び粉体利用学	土壌学のうち、特に世界の主要水田土壌の肥沃性と生成論の比較研究
教 養 部 教授	林 憲一郎	2. 4. 25	兵庫県	仏 語	モリエールを中心としたフランス古典喜劇の比較文学的研究
〃	保 田 清	2. 11. 19	兵庫県	倫 理 学	洋の東西に亘る倫理思想を思索媒介とする倫理学の研究
〃	三 谷 健 次	3. 1. 1	三重県	物 理 学	プラズマ物理学（プラズマとビームとの相互作用による熱化の研究）
〃	吉 井 良 三	3. 2. 14	大阪府	生 物 学	跳虫を主題とした分類学、洞穴・高山などの特殊環境の生物の研究
化学研究所教授	小 林 恵之助	2. 5. 7	大阪府	高 分 子 結 晶 学	高分子固体の微細構造の解明とそれに必要な特殊電子顕微鏡の開発
人文科学研究所教授	井 上 清	2. 12. 19	高知県	日 本 思 想	日本近現代史
〃	日比野 丈 夫	3. 3. 4	京都府	歴 史 地 理	東洋（特に中国）の歴史地理、中国地理学史
結核胸部疾患研究所教授	上 坂 一 郎	2. 4. 15	福井県	細 菌 血 清 学	病原微生物に関する細菌学的及び免疫血清学的研究
木材研究所教授	満 久 崇 麿	3. 1. 23	富山県	木 質 材 料	木材の熱伝導及び熱放射、木材の乾燥、パーティクルボードの性質等

新システムは当センターの建物の増築部分に設置され、集中監視方式やデマンドプリント方式等の採用によって、自動化・省力化を図っている。また公衆電話回線による新形態の TSS 利用も可能となり、さらに東大・京大両センターを中心とする計算機網の開発もこのシステムにより推進される。

れる。

なお、副システムも従来より高性能の FACOM 230-48 に置換えられ、グラフィック関係の処理能力も増強されている。このほかに、事務処理等のために 230-35 システムがある。

(大型計算機センター)

<紹介>

法 学 部 の 蔵 書

京都帝国大学に法科大学が開設された明治32年以降収受された法学部所属図書は、昭和51年3月現在約386,000冊で、そのうち洋書が221,000冊を占めている。これは、国立大学法学部蔵書として、東京大学の328,000冊（うち洋書180,000冊。日本図書館協会編「日本の図書館」1976年版による）をも凌ぎ、わが国最大のコレクションといっている。

とくに戦前の洋書に関しては充実した内容を誇っているが、その一翼を担うものとして、(1)ターナー文庫(2,948冊)、(2)ハチェック文庫(2,256冊)、(3)トゥール文庫(1,892冊)などの特殊文庫がある。これらは、いずれも第一次大戦後ドイツから供与されたものであるが、昭和6年に大蔵省から本学へ保管転換され、昭和7年3月に法学部に受け入れられた。

教会法に造詣の深かったF・ターナーの旧蔵書を収める(1)には、同法関係の貴重な文献が多く、教会法はドイツ民法典成立以前には実質上ドイツ家族法としての性格も有していたから、本文庫は国制史のみならずヨーロッパ家族法史を研究する者にとっても重要な意味をもっている。ワイマル憲法下においてドイツ国法学及び行政法学の分野で活躍しイギリス公法研究にも業績を残している。

るJ・ハチェックの旧蔵書を収める(2)には、公法学のみならず哲学・史学関係の図書もあり、また Allgemeines Landrecht für die preussischen Staaten, 1832 など全国的にみて貴重な資料も含まれている。ロマニステンとして、その精細で周密な体系がドイツ普通法の伝統に最後の光をそえたといわれる民法学者A・V・トゥールの旧蔵書を収める(3)には、19世紀から20世紀にかけて出版された私法関係の図書が多く、現在ドイツでも当時の文献の復刻が盛んな状況に照して貴重な存在といえよう。

ほかに特殊文庫としては、早逝された故法学部助教授小早川欣吾氏の収集された日本法制史関係の基礎的文献を中心とするコレクションとして小早川文庫(2,302冊)があり、そこには江戸時代や明治期の珍しい文献が少なくない。

法学部では、特殊文庫利用の便をはかるため、その目録作成に努めてきたが、(1)については昨年3月に「ターナー文庫目録」を刊行し、(2)(3)についても今年度中に目録刊行の予定である。

なお、法学部蔵書全般についてカードによる検索が可能なことはいうまでもないが、明治32年から昭和3年末までに法科大学並びに法・経両学部において収受した洋書約150,000冊については、これを分類整理し索引を付した「欧文図書目録」全3巻（大正12年～昭和10年）が刊行されており、その全容を簡便に概観することができる。

日 誌

(1977年1月1日～1月31日)

1月4日	新年名刺交換会	1月18日	遺跡保存調整委員会
10日	廃棄物処理等専門委員会	19日	同和問題委員会
11日	大学院審議会	25日	安全委員会
14日	遺跡保存調整委員会	27日	学位授与式
〃	コスタリカ国コスタリカ大学 Chen・Apuy 教授、人文科学研究所を訪問	29日	放射性同位元素等管理委員会
		〃	結核胸部疾患研究所学術講演会(楽友会館)

計 報

1月18日	医学部 村岸阿紀良技官逝去	1月31日	矢野勝正名誉教授(元防災研究所教授)逝去
-------	---------------	-------	----------------------